

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		上代継在宅地域支援センター				公表日	令和8年 1月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	・必要時、部屋のレイアウトを変更するなどの工夫をしている。 ・子どもの利用人数に合わせ、職員同士で相談しながら対応している。	・スペースには限りがあるため、引き続き利用人数や保育内容によって、部屋の使い方などを工夫しながら、適切に使用できるようにしていきます。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・当日の子ども的人数や状態に合わせ、保育内で柔軟に対応している。	・子どもの成長などに合わせ、子どもや家族と相談しながら適切な配置にできるよう進めていきます。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・おもちゃの配慮などをわかりやすく区切っている。 ・スケジュールなど絵カードを活用するなど可視化してわかりやすく配慮している。	・子どもの成長によって環境は変化していくものなので、今後も話し合いを重ねながらその都度、適切な情報や配置にできるよう進めていきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	・その日登園される子どもの特性に合わせて、心地よく過ごせるよう環境設定をしている。壁紙など設備に経年劣化が見られる。 ・トイレは湿度が溜まりやすい立地のため清掃に気をつけている。	・日々の清掃及び子どもの特性に合わせた環境作りに留意していきます。 ・開設から20年以上となり、設備や壁紙等の経年劣化もあり、清掃及び修繕を検討していきます。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	・ご家族との面談などは面談室を使用して対応している。 ・体調不良などの際には静養室や面談室などを利用することができている。	・事前に個室を予約するなど、個別対応ができるよう、子どもやご家族と情報交換を行いながら支援をしていきます。保育内容により生活介護とも部屋の調整をしていきます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	・リハビリスタッフと生活支援職員(保育士等)、看護師がそろい、支援会議で個別支援計画に基づき振り返りや改善点などを情報共有している。	・全体で情報を共有できるよう時間を設定していきます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・多職種を含めた全体会議の場で話し合い、業務改善を行っている。	・評価表の内容を全体で周知し、改善に繋がられるよう、引き続き会議の機会を設定していきます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・会議を毎月開催しており、情報共有とともに、業務改善にも繋げている。 ・週に1度、担当者会議を開き1週間の振り返りや今後の支援方法について確認、個別の情報などを共有している。	・引き続き、定期的な会議の開催を行い、情報共有に努めていきます。また、発言しやすい雰囲気作りに努め、一丸となって、よりよい支援に繋がっていきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	・通所は制度的に必須事項ではないが、令和6年度利用者調査を実施した。	・今年度は実施しなかったが定期的な第三者評価機関での評価を検討していきます。 ・評価結果に対し改善に努めていきます。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	・計画的に障害や権利擁護などについての、外部研修、センター内研修などを開催し、研修を受けている。	・多くの職員が参加できる研修の時間設定を行うとともに、外部研修にも参加できるよう計画的に進めていきます。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	・看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、生活支援員等で検討・作成を行い公表している。	・全体会議で話し合いながら子どもの成長や状況にあわせたプログラムを検討し、公表していきます。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		・子どもの特性や成長に合わせた支援計画を作成し、保護者・職員での共通理解のもと取り組んでいる。	・保護者面談や多職種間で支援計画について話し合いながら、状況に合わせた計画を立てられるよう努めます。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・多職種間で事前に会議を行い、個々に合わせた内容で共有、検討を行っている。 ・本人、保護者、多職種が参加する支援会議を開き、話し合いのもと支援計画を立てている。	・既存の会議体制を継続していき、子どもに関わる職員と連携をとりながら支援会議で計画を立てていきます。		

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		・生活支援員（保育士等）、看護や多職種（リハ、コーディネーターなど）で支援計画内容を共有し、共通した支援を行っている。	・支援計画を職員間で共有し、計画に沿った支援を統一して行えるように進めています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・標準化した評価方法は用いていない。	・日々の行動観察など標準化したツールの活用を検討していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		・各職種で連携し支援内容を設定している。	・各パートごと計画に基づいた支援内容を立て、全体会議で内容について話し合い、適切な支援計画を立てられるようにしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	・保育計画を作成し、事前に打ち合わせを行うなどして準備している。 ・登園するこどもに合わせたプログラムや注意点などを打ち合わせて保育を行っている。 ・リハビリ職員が保育へ入る際には、事前に相談して専門性のある遊びを取り入れられるよう、月の予定を設定している。	・全体会議で話し合いながら、こどもの特性に合わせた活動プログラムを立て、実践していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	・同じ保育内容でもこどもの特性や人数、使用する物品等や自助具などを換え、工夫して取り組んでいる。 ・お子さんが慣れた環境で安心できるように固定化しているプログラムもあるが、年間計画をもとに保育内容を検討し提供している。	・職員間で情報交換を行いながら、こどもの適正に合わせた様々なプログラムを行っています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	・製作活動などは母子で個別にじっくり関わられるように、ゲームなどは集団を意識できるような内容で行っている。 ・個々での活動では、一人一人に合わせた環境的配慮（使用道具など）を行い支援している。	・個別面談や会議を行いこどもに合わせた計画を立て、支援を実施していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・保育計画を作成し、朝の打ち合わせ時間を設定し職員間で情報共有している。	・事前の打ち合わせ等で情報交換、情報共有を行い支援していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		・支援終了時にはその日の保育リーダー職員が主となりリハビリ職員も一緒に、振り返りを行い、反省点を次回に活かせるよう工夫している。 ・週に1度の会議の際にも振り返りを行っている。	・支援後の反省会や業務記録で内容を共有しながら、より良い支援に繋がっていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		・その日の様子やご家族からの情報を記録ソフトで共有し、会議等で見直し、次の支援に繋げている。	・日々の記録を計画に反映してより質の高い支援を行えるようにしていきます。
関係	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		・6か月に1度必ずモニタリング及びケース会議を行って計画の見直しをしている。	・日々の支援や面談でこどもやご家族から話を伺い必要時には計画の見直しができるよう準備をしています。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		・看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、生活支援員、コーディネーターなど、こどもの状況を理解した職員が参加できるよう予定を組んでいる。 ・保育園と保護者との連携ケース会議にも出席している。	・支援を行っている職員を中心に会議に参加できるように調整していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・併用利用している、幼稚園、保育園・児童発達支援との連携を強化している。	・保護者を通しての情報交換及び、併用利用している幼稚園、保育園、児童発達支援との連携を図っていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・併行利用のこどもについては併行通園先の保育所等へ見学を行い、お互いの役割と情報の共有を図っている。	・併用利用している幼稚園、保育園、児童発達支援との情報共有の機会を設け相互理解に努めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・支援計画等をもとに引継ぎを行ったり、就学前の様子を見学に来てもらう等して情報の共通理解を行っている。	・関係機関とのやり取りを行いながら就学するお子さんや家族が安心して移行できるよう情報交換を行っています。

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	5	2	・登録しているこどもの家族や地域の方に向けた勉強会を企画している。	・平行利用先の事業所と連携を図り、定期的に地域に向けた勉強会を開催できるよう計画を立てていきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。		7	・看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士等と、支援について相談しながら、支援の質が向上するよう努めている。	・必要に応じて、外部研修の機会を設けていきます。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	2	・協議会に参加している。また、相談支援員から情報提供を受けている。	・引き続き、自立支援協議会などの会議に参加できるよう調整を行っていきます。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		・地域の保育園に月1度程度出向き交流を行っている。	・今後も保育交流を続けていきます。交流の回数や曜日については限りがありますが、全員が参加できるように日程を調整していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・親子保育時や送迎時に情報交換を行っている。 ・個別支援計画や面談、親子登園時に情報交換で知り得た情報を、随時会議で話し合い、共通理解できるよう努めている。	・親子保育時や送迎時などに情報交換を行いながら課題についての共通理解ができるように努めていきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・てんかん、スキンシップ、食形態などの勉強会を企画している。	・年間計画を立て、勉強会、研修を実施していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・入園時、年度開始時にオリエンテーションを行い、重要事項説明書や通所利用にあたってのご案内をもとに説明している。	・丁寧な説明を行っていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・日々の保育での聞き取りや面談を設定している。支援会議に本人・ご家族にも参加して頂いている。	・本人、ご家族の意思、意向を確認しながら支援していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		・面談時には計画書を提示しながら丁寧に説明し、同意を得ている。修正が必要な場合は改めて話し合いの機会を持っている。	・面談で支援計画を丁寧に説明し、同意を得て支援していきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・定期的にご家族と話しをする機会を設け、悩みや相談を聞き、必要時助言や他職員との情報共有を行っている。	・親子登園時や面談で情報交換をしながら適切に面談や助言、支援を行っていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1	・家族交流会や運動会を通して家族支援に取り組み、活動内容もきょうだいも含めて楽しめる行事の内容を提供している。 ・学校が休みの時など、きょうだいも保育に参加し交流を行っている。	・家族交流会や行事を通して保護者同士で交流する機会を設けていきます。きょうだいも夏休みなどの休暇時には、一緒に登園できるように調整しています。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・こどもや家族から相談を受けた場合には、職員間で周知し、速やかに対応できるような体制を取っている。	・保護者からの相談や申し入れについて、迅速かつ適切に対応していきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		・毎月の活動予定と行事や活動の写真の入った「ちゅうりっぷだより」を発行して、日々の活動の様子や伝達事項を発信している。	・引き続き、お便り等で情報を発信していきます。また、書面以外のご家族が活用しやすい媒体についても検討していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		・個人情報の取り扱いについては承諾書を取っている。	・個人情報の取り扱いについては留意していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		・こどもの様子や意思表出について分からないことがあれば、保護者からも確認をとり情報を得るようにしている。 ・サインや写真を提示するなど個別性を考えながら意思の疎通を図っている。	・こどもや家族、職員間で情報交換、情報共有、伝達等、連携をとりながら支援を行います。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	・感染対策を行いながら、地域のボランティアの方々や見学者の受け入れ等行っている。	・感染対応を行いながら、地域との連携を進めていきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	・各種マニュアルは策定しているが、家族への周知は十分ではない。	・マニュアルを職員や家族へ周知するとともに、すぐに確認できるよう提示方法について検討していきます。

非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	・センターの計画に準じて、定期的に避難訓練や研修を行っている。	・必要な訓練や状況に合わせた訓練、研修が行えるよう計画していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・ご家族と年度ごとやその都度情報交換を行いながら、状況を確認している。	・適時確認を行い、情報を更新していきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		・食物アレルギーがあれば、食事箋に明記して栄養科と連携して対応している。配膳時には個別ごと食札にアレルギー食材の表示をしている。	・安全に配慮した食事提供を行っています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1	・日々の保育の前に当日の担当職員で危険箇所などないか確認しながら、支援を行っている。	・安全計画の定期的な見直しを行い、チェックリストなども活用し、安全に配慮した支援を行っています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	・年度ごとのオリエンテーションや面談時に周知を行っている。	・色々な形で提示していけるよう取り組んでいます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・ヒヤリハットの取り組みを行っている。センターの安全対策部会で報告を行い、通所内でも速やかに朝礼、会議で事例、対策を周知し再発防止に努めている。	・ヒヤリハットの内容、対策について職員周知を朝礼、会議等で行いながら再発防止に向けた方策を検討していきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・虐待防止委員会での研修機会を設けている。東京都の虐待防止権利擁護研修を受けている。 ・自分の業務を振り返るチェックシートを定期的に行っている。	・職員の研修の機会を確保し、適切な対応を行っています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	1	・身体拘束適正化委員会にて身体拘束について管理している。対象者が出た場合は適切な対応を実施する体制を整えている。 ・安全面を配慮した上での座位保持・バギー等でのベルトの装着については支援計画に記載し、説明を行っている。	・必要時には、適切な対応ができるよう関係者で見直しを行い改善を図っていきます。